

平面計画

【平面計画の考え方】

各エリアを利用しやすく明確に分けたゾーニング計画

エリア別に設けた出入口により機能性に配慮

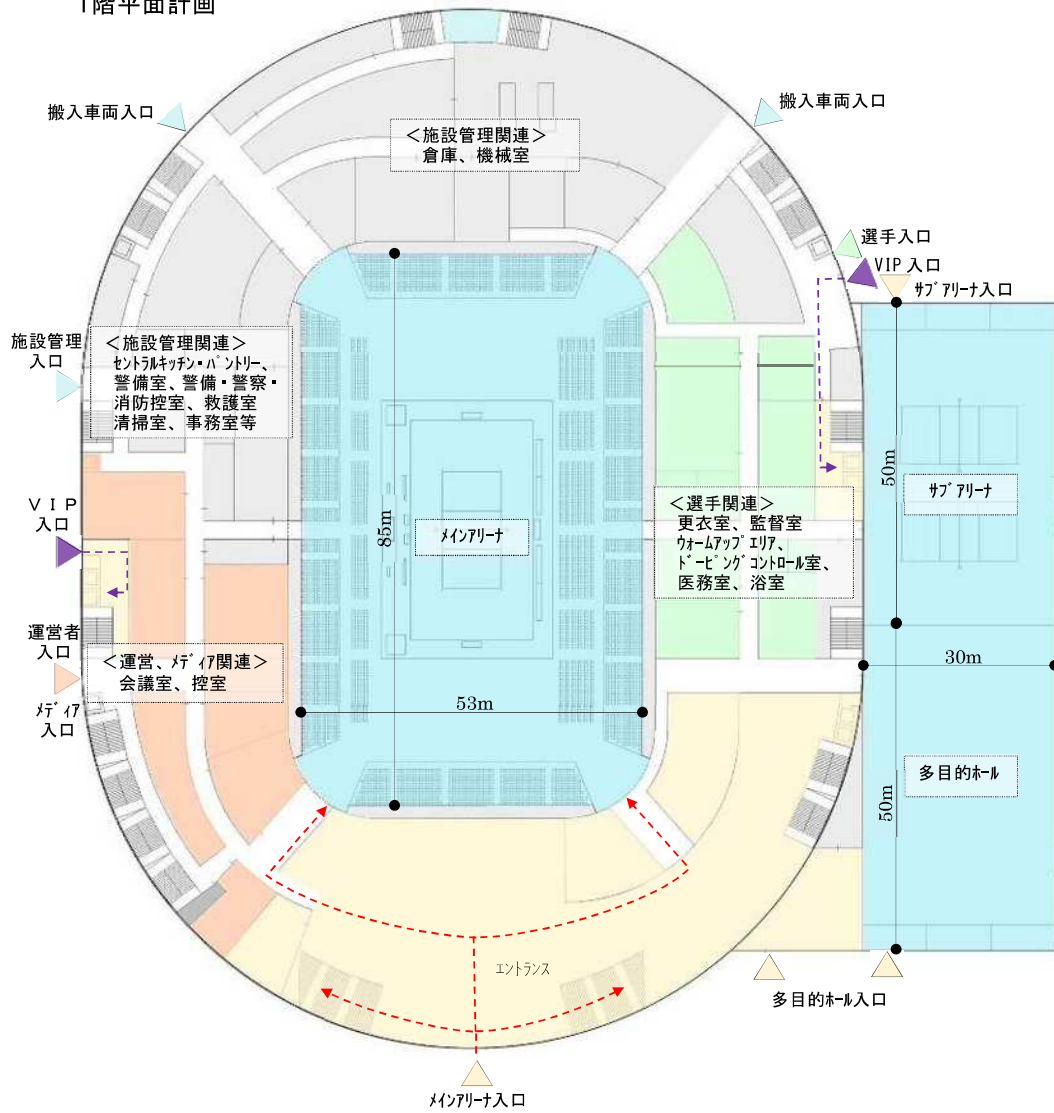
各種目への対応を可能とするシンプルな平面構成

サブアリーナと多目的ホールの連携利用がしやすいエリア配置

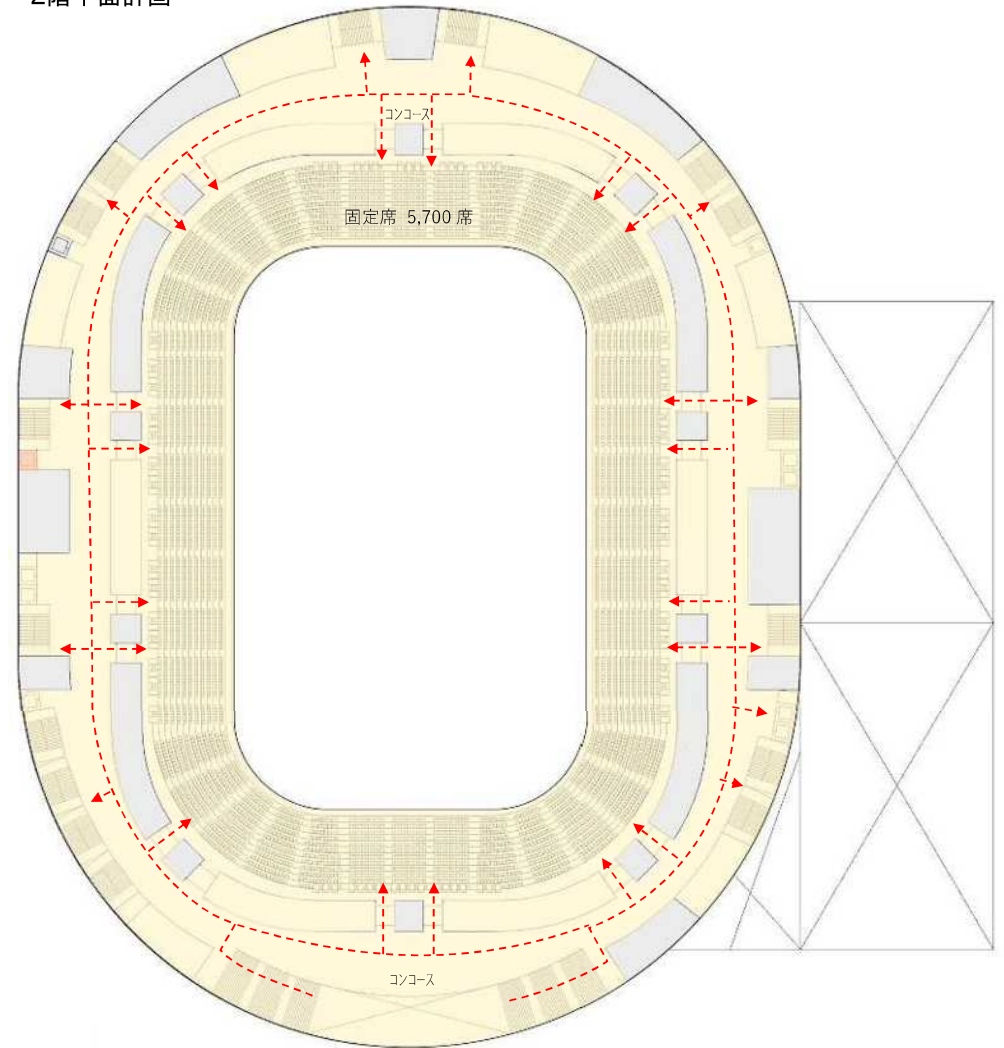
フロア	考え方
1階	<ul style="list-style-type: none"> ① 競技面、観客関連諸室、VIP関連諸室、選手関連諸室、運営・メディア関連諸室、施設管理諸室を計画する。 ② 競技面は、バレーボール、バスケットボール4面分のコートを確認できる広さ(4,500㎡程度)とし、全国大会等での利便性を計画する。 ③ サブアリーナは、バレーボール大会のウォームアップ対応として、コート2面分の広さを確保する。 ④ 多目的ホールはイベント時のレセプション、ファンサービスのほか、サブアリーナと一体でのコンベンション利用も可能な計画とする。 ⑤ 選手関連諸室は、バレーボール等のスポーツ国際基準を参考に、更衣室、医務室、ドーピングコントロール室、浴室等を計画する。 ⑥ 運営・メディア関連諸室は、諸室のイベント規模に応じて規模の改変可能な会議室を計画する。 ⑦ レセプション、VIPのケータリング対応としてセントラルキッチンを計画する。 ⑧ メインアリーナへ大型資材を直接搬入できる進入路やトラックヤードを計画する。
2階	<ul style="list-style-type: none"> ① コンコースは、避難誘導等を想定し幅員7m程度で計画する。 ② 観客の主動線となるコンコースに面して飲食や物販のテナントスペース(仮設)等を計画する。 ③ コンコースの一部にホールを設けこれに面した位置にトイレを設置するなど、利用者の動線と滞留スペースに配慮した計画とする。
3階	<ul style="list-style-type: none"> ① VIP諸室は、1階から専用の動線を計画し、ラウンジや控室から観客席に直接アプローチ可能な計画とする。 ② VIPルームは10室程度を確保する。 ③ 観客関連諸室は、コンコースからボマトリーと横通路を利用した動線計画とする。
4階	<ul style="list-style-type: none"> ① VIPルームは5室程度を確保する。 ② 運営・メディア関連諸室として、競技エリアを見渡すことのできる位置に、音響、映像、調光等の各種調整設備室を計画する。

平面計画【イメージ1】

1階平面計画



2階平面計画

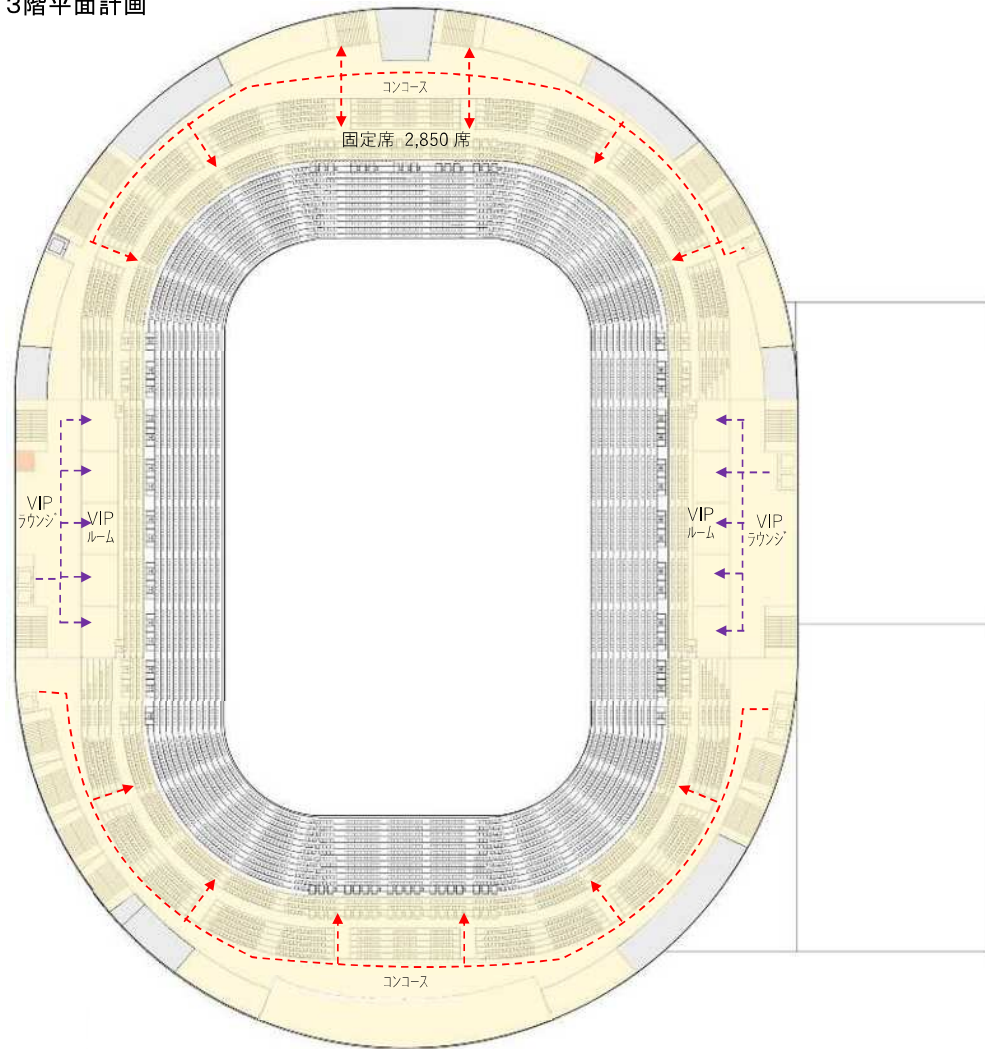


- <凡例>
- 観客関連エリア
 - 競技面等関連エリア
 - 選手関連エリア
 - 運営、マイク関連エリア
 - 施設管理関連エリア
 - 一般観客動線
 - VIP動線

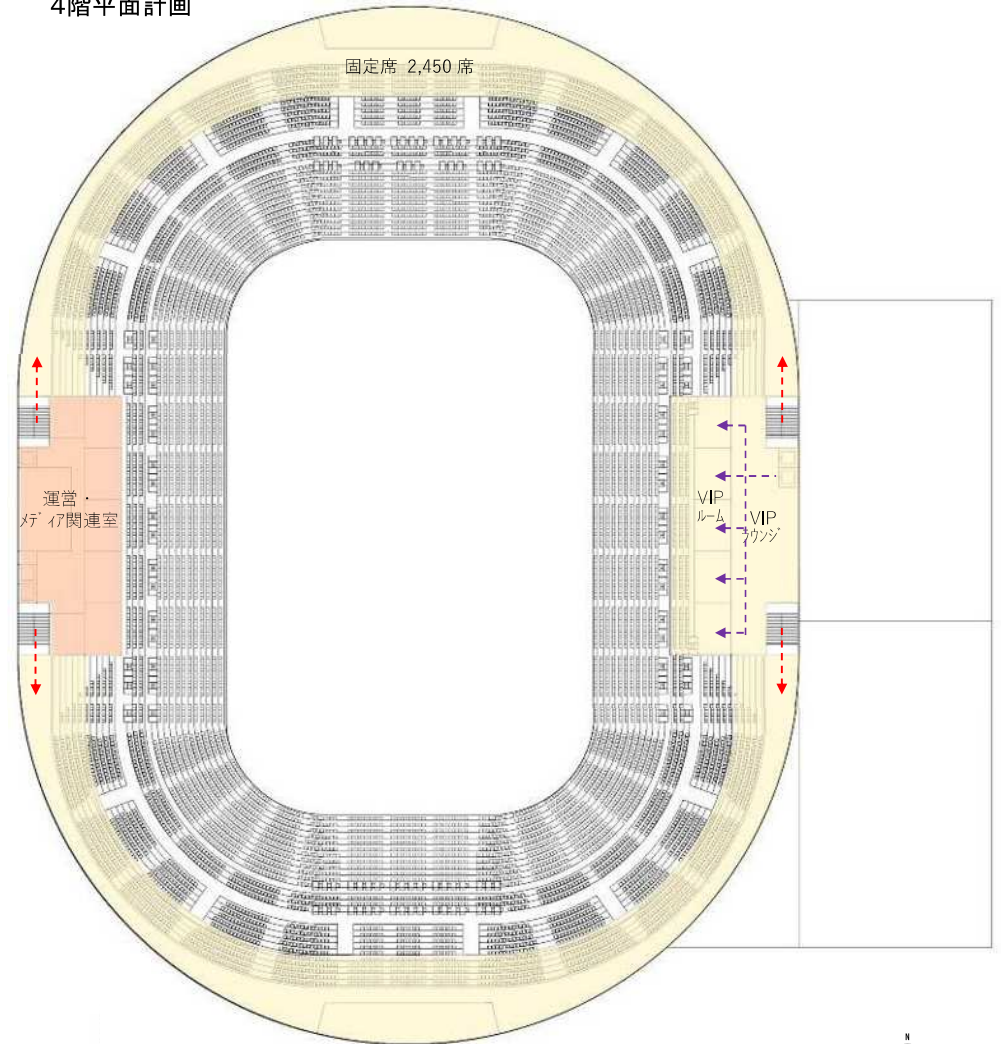


平面計画【イメージ1】

3階平面計画



4階平面計画



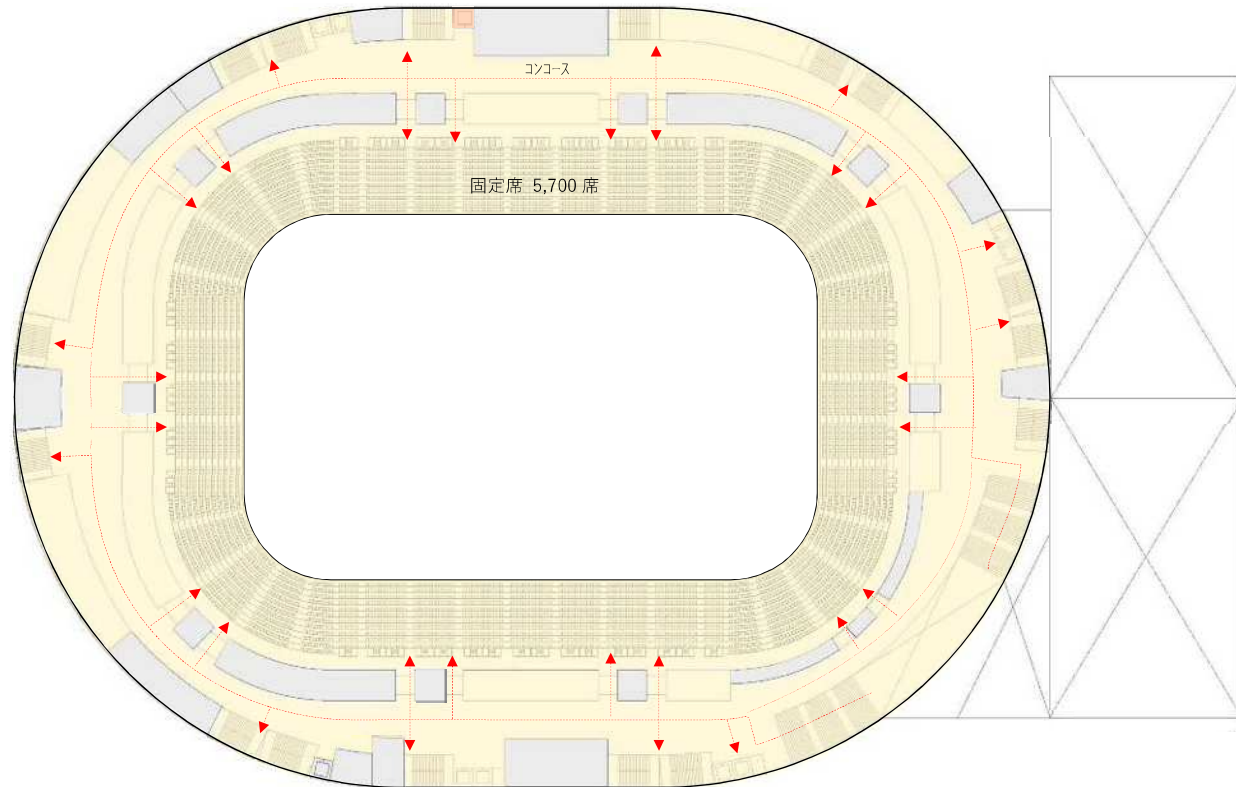
- <凡例>
- 観客関連エリア
 - 競技面等関連エリア
 - 選手関連エリア
 - 運営・メディア関連室
 - 施設管理関連エリア
 - 一般観客動線
 - VIP 動線



1階平面計画



2階平面計画

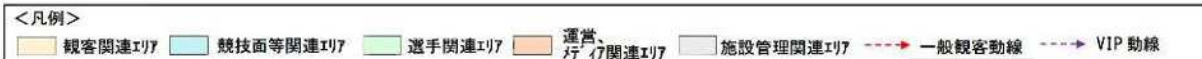
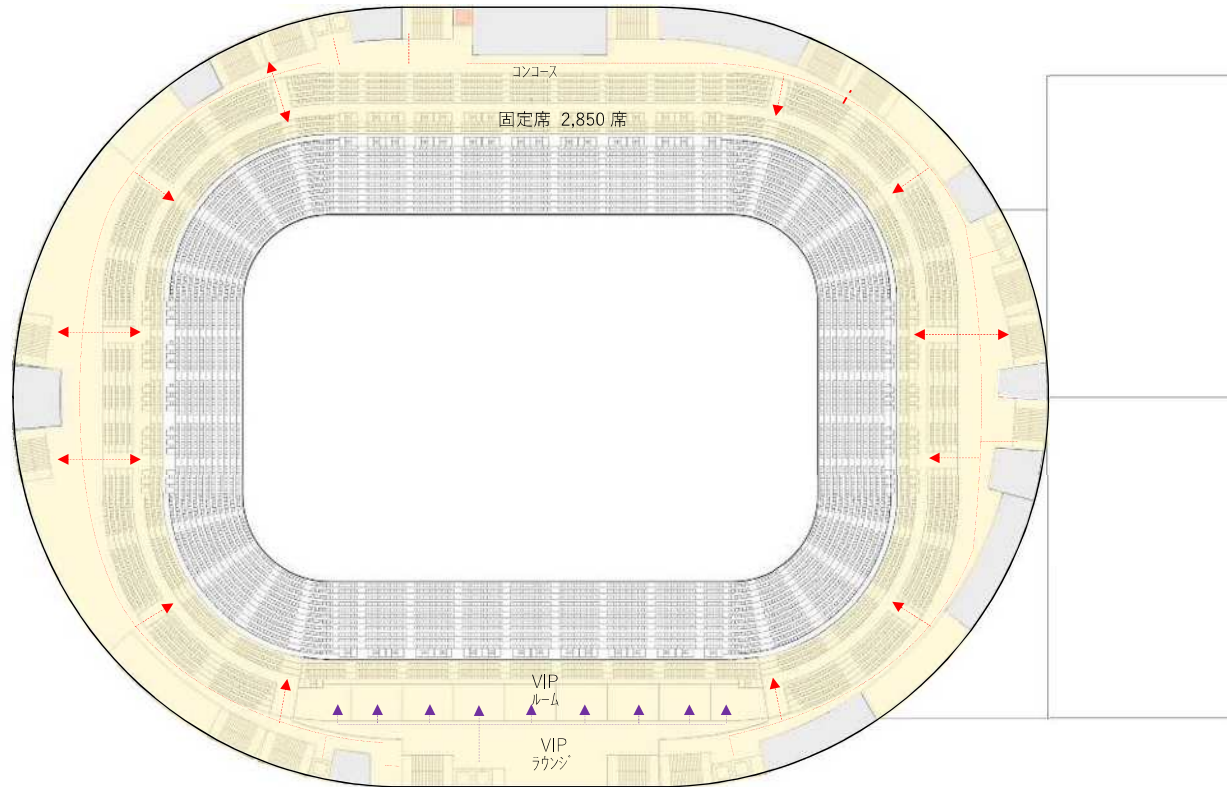


<凡例>

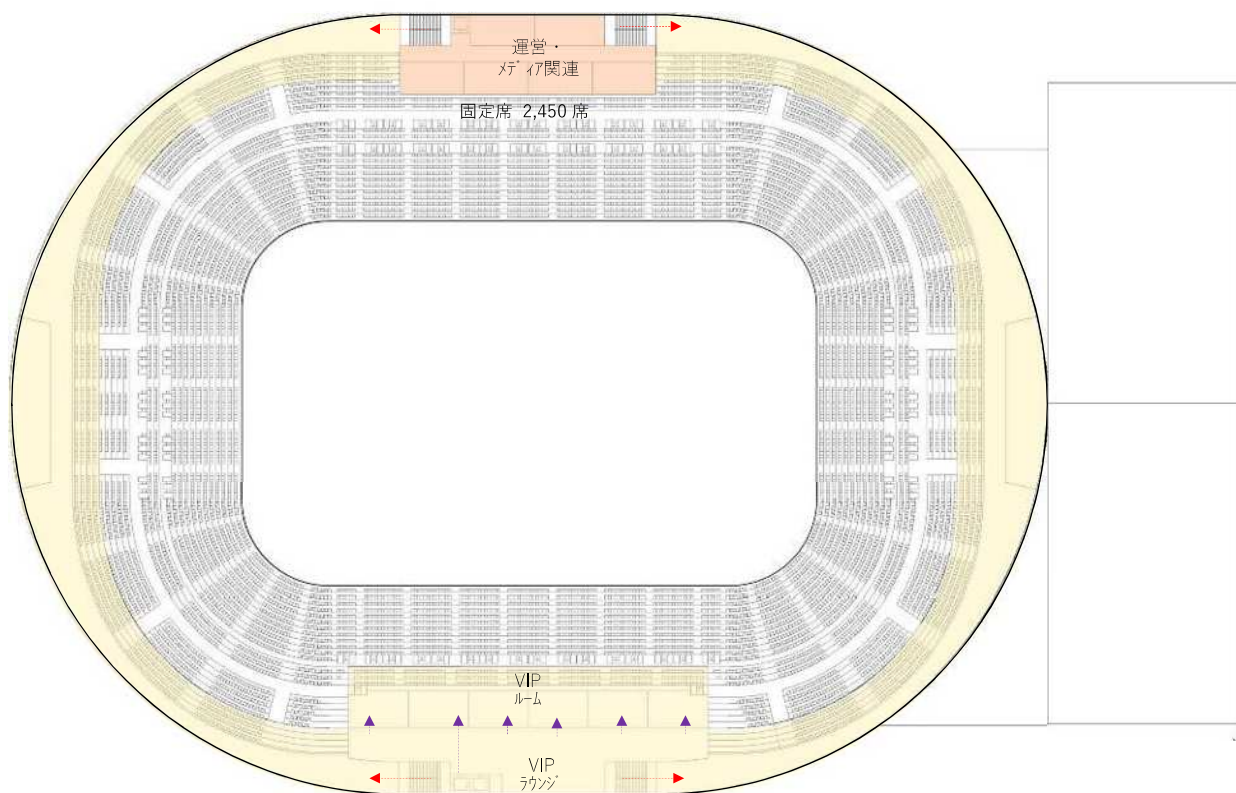
観客関連エリア	競技面等関連エリア	選手関連エリア	運営、 行方関連エリア	施設管理関連エリア	一般観客動線	VIP 動線
---------	-----------	---------	----------------	-----------	--------	--------



3階平面計画

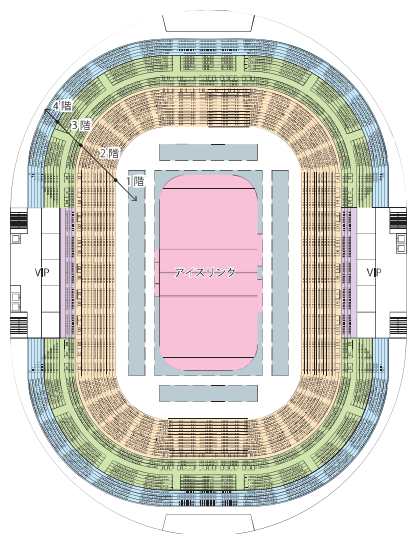


4階平面計画

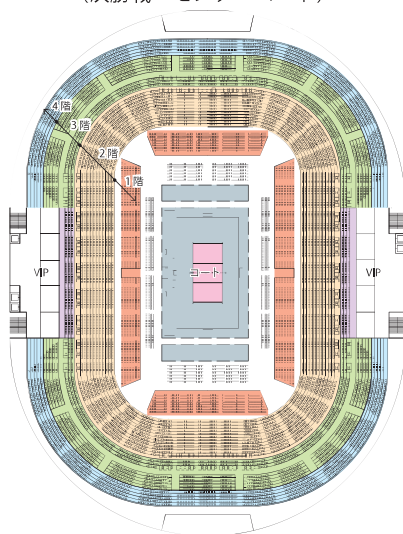


各種機能概要(メインアリーナ観客席概要①)

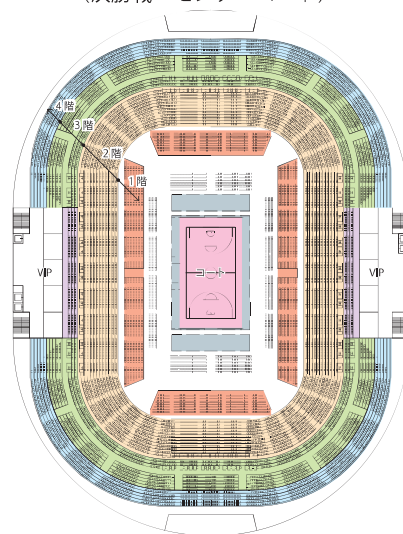
フィギュアスケート



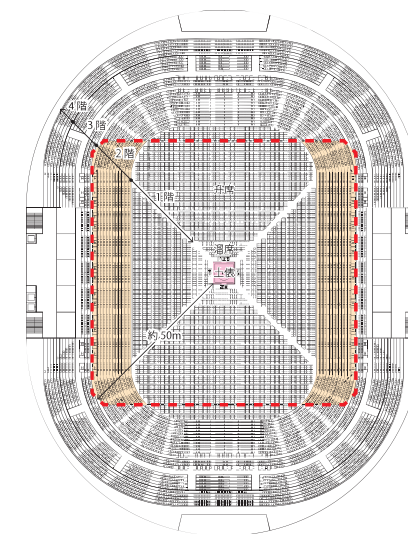
バレーボール
(決勝戦：センターコート)



バスケットボール
(決勝戦：センターコート)



大相撲

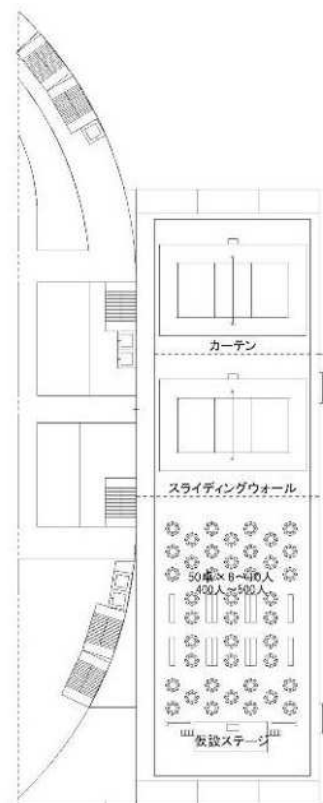


〈席内訳〉

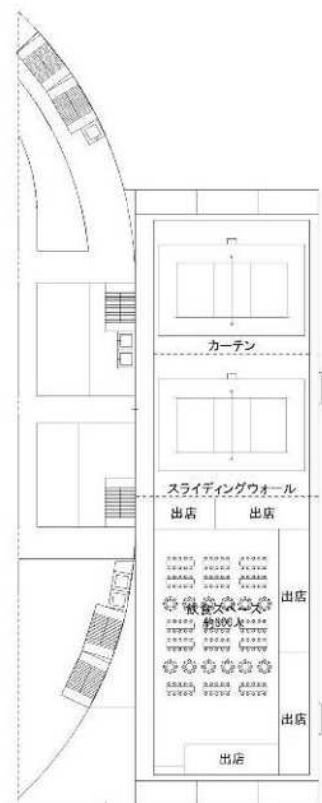
		フィギュアスケート	バレーボール・バスケットボール		大相撲
4階	一般用	約 2,450席 (VIP室：5室程度)			使用しない
3階	一般用	約 2,850席 (VIP室：10室程度)			使用しない
2階 (固定席)		約 5,700席	約 11,000席		約 2,800席
1階 (競技面)	可動席	使用しない	約 3,000席	約 14,000席	使用しない
	仮設席	-	約 1,000席		(升席) 約 7,800席 (溜席) 約 400席
合計		約 11,000席 【基準なし】	約 15,000席 【国際大会基準(15,000席以上)】		～約 11,000席 【両国国技館：11,000席、現名古屋場所：約8,300席】
備考(※)		○アイスリンク周辺には、大会関係者席、審判員席、メディアスペース、キス&クライ(選手・コーチが審査結果を待つスペース)等の競技用スペースが設けられる。 ○競技用スペースを除く部分には、通常仮設アリーナ席が設けられるが、設置席数は大会により異なるため不算入とした。	○観客席は、国際大会決勝戦に対応するための席数を設置した。 ○通常、アリーナ競技面には、観客席の他、大会関係者席、メディアスペース、コーチ、控選手の待機等のためのスペースが設けられる。		○取組や土俵上の音の可視・可聴距離を最大約50m(国技館同等(赤破線枠内))として、設置席数を想定した。 《大相撲協会ヒアリング(参考)》 ○会場が広すぎると、行事の声、力士のぶつかる音などが聞こえづらくなる。

配置計画(イメージ1)により想定

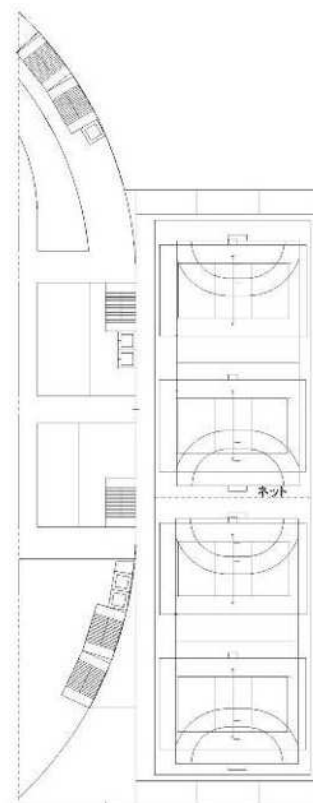
各種機能概要(サブアリーナ・多目的ホール利用イメージ①)



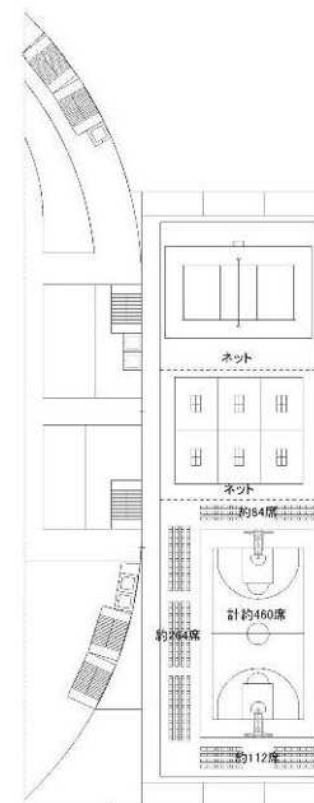
【国際スポーツイベント利用①】
サブアリーナ
バレー 2面 (ウォームアップ)
多目的ホール
レセプション：約400〜500人



【国際スポーツイベント利用②】
サブアリーナ
バレー 2面 (ウォームアップ)
多目的ホール
物販・飲食店等：約300㎡
飲食スペース：約300人



【スポーツ大会モード①】
サブアリーナ
バレーボールコート 4面
バスケットコート 2面

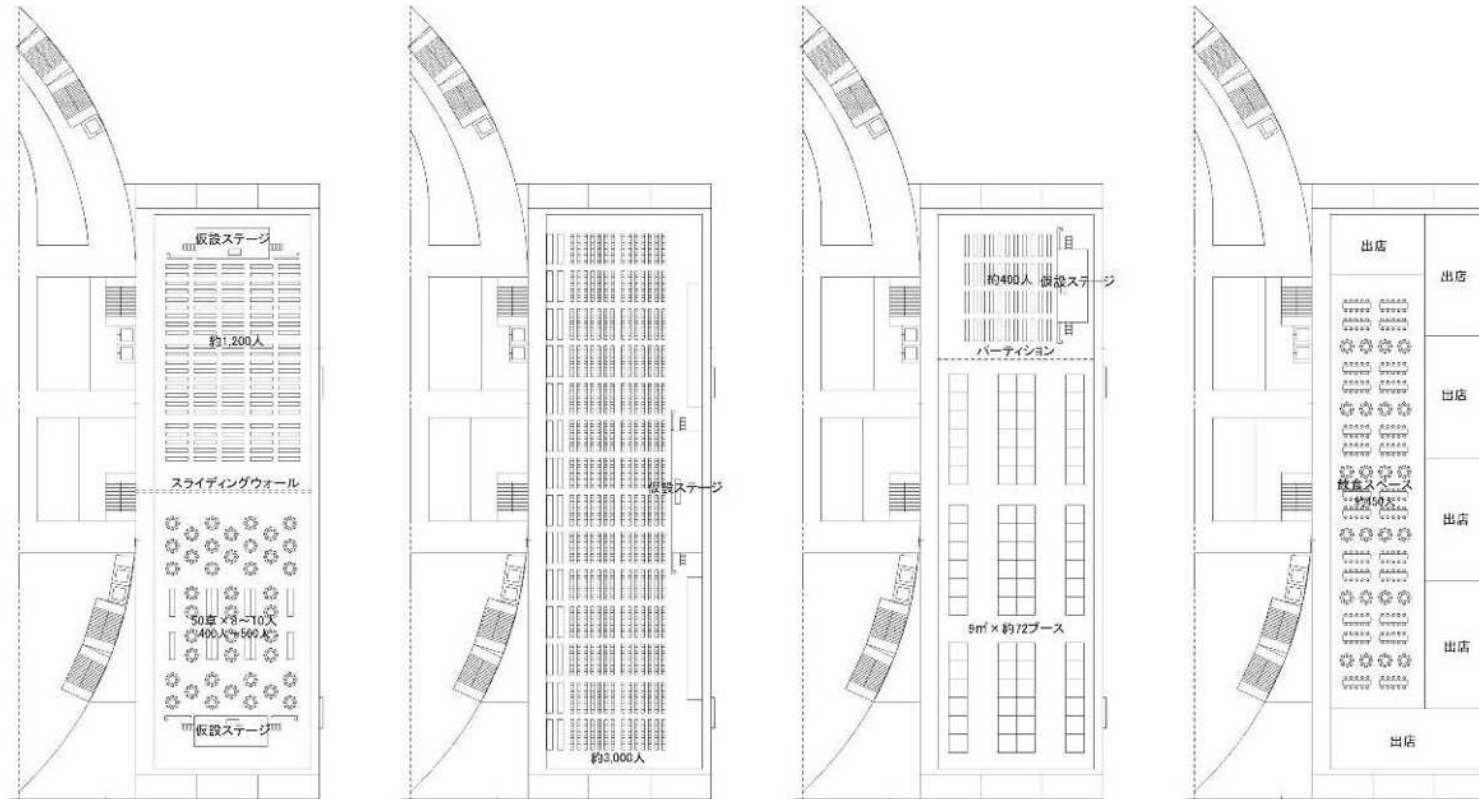


【スポーツ大会モード②】
サブアリーナ
バレーボールコート 1面
卓球 6面
多目的ホール
バスケット大会(客席460席) 1面



【スポーツ大会モード③】
サブアリーナ
バスケット大会(客席460席) 2面

各種機能概要(サブアリーナ・多目的ホール利用イメージ②)



【コンベンションモード①】
 サブアリーナ
 シアター形式：約1,200人
 多目的ホール
 レセプション：約400～500人

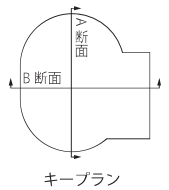
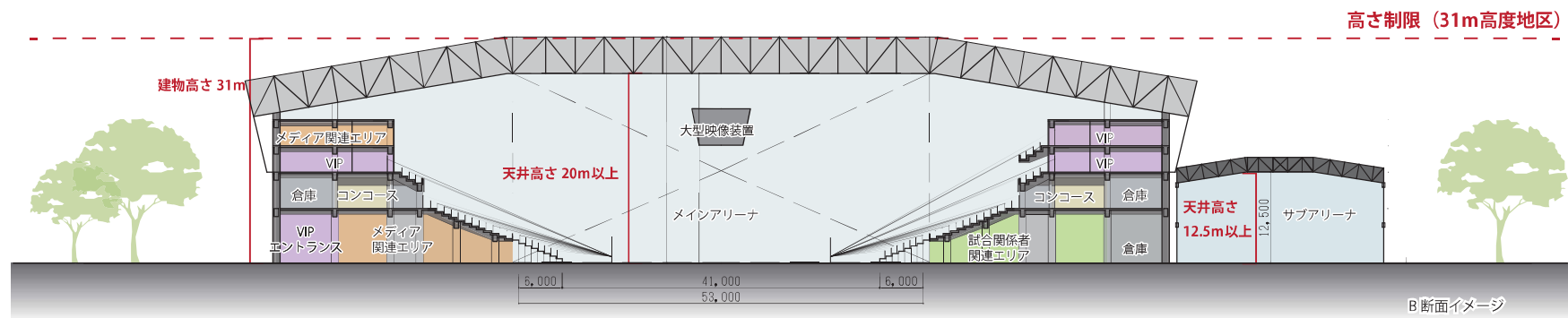
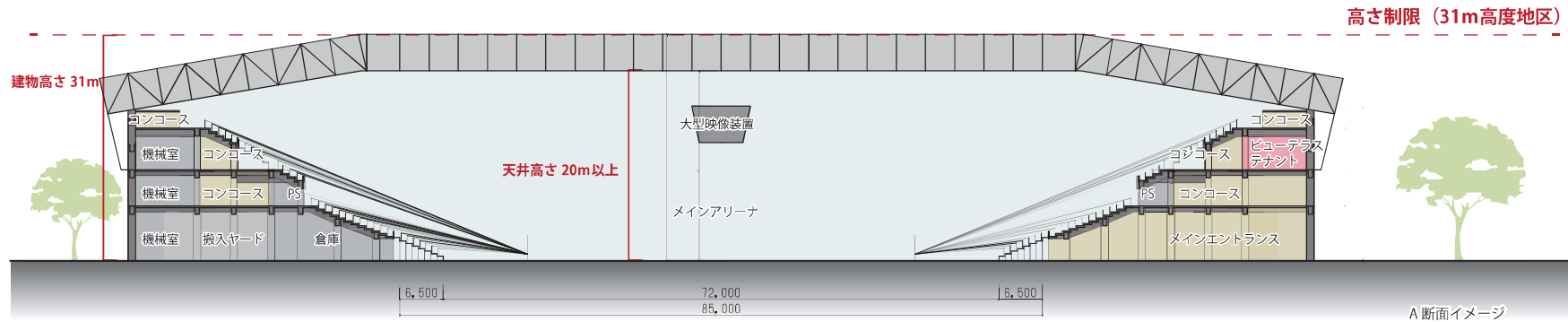
【コンベンションモード②】
 シアター形式：約3,000人
 レセプション：約1,000～1,200人

【展示会モード】
 セミナー会場：約400人
 展示スペース：約70ブース

【イベントモード】
 物販等スペース：約600㎡
 飲食スペース：約450人

断面計画【イメージ1】

- 観客関連エリア
- ホスピタリティ
関連エリア
- 試合関係者(チーム)
関連エリア
- 試合関係者(運営進行)
メディア関連エリア
- 施設管理関連エリア
- その他エリア
(バックヤード・倉庫等)
- テナント・売店エリア



断面計画【イメージ2】

- 観客関連エリア
- ホスピタリティ
関連エリア
- 試合関係者(チーム)
関連エリア
- 試合関係者(運営進行)
メディア関連エリア
- 施設管理関連エリア
- その他エリア
(バックヤード・倉庫等)
- テナント・売店エリア

